

初秋 駒ヶ岳にて

すれ違う車もなく、黒く沈む山々を眺めながら、ひどく山深いところへ来たものだなと思う。道の両側に咲くコスモスと、収穫を待つばかりの稲の穂だけが、人々の営みを感じさせる。「オバケが出るぞー」などと騒いでいるうちに、本日の宿泊地檜枝岐村到着。会津の山奥の村はあくまでも静かに、我々を迎えてくれました。明日の駒ヶ岳登山にそなえて、早々に床につく。

朝5時、窓の外は重い雲が垂れ込め、軒先からは大粒の雫がポタリ。身の不運を嘆きながら、再びフトンへ逆もどり。まもなく雲が切れ始め、ささやかな青空が顔を出す。7時40分、予定時刻を大幅に遅れて出発。本日のコースは、駒ヶ岳→中門岳→大津岐峠→キリンテそして檜枝岐へ戻るものである。所要時間は9時間程であろうか。木の梯子を登り、いよいよ登山開始。木々を渡る風は冷たく、山の頂で始まった紅葉も段々里へ向かっておりて来る。そこここには夏と違った落ちつきが。そこで一句といきたいところだが、出て来ません。そこで、有名なものをチョット拝借して、「秋きぬと 目にはさやかに見えねども……」突然の声に振りむけば、我が友人の手には得体の知れないキノコがありました。それからというものは、ただただ、「高み」をめざす我々の山登りは、キノコ狩りへと変わったのでした。囲りの風景をみる余裕はなくなり、見つめるは木の根本ばかり。そのうちに、勾配はゆるみ、視界がひらけ、湿原に入る。一面の「くさもみじ」黄褐色に彩られた湿原は暖かそうなのに、淋しい思いに誘われるのはなぜでしょうか。いずれは滅びゆくものに対する想い。しかし、これは私の感傷にしかすぎないでしょう。確実に春はめぐり来て、この湿原も光り輝く時が来る。ア、人間も来るべき時まで、ジット冬眠できたらと思う。一等三角点入口の標識のある斜面を登ると、2,132メートル、駒ヶ岳山頂である。到着時間11時。回りはすべて霧の中、何にも見えません。ガイドブックによるとここからの展望はすばらしいはずなのですが。登頂証摺写真撮影の後、予定通り中門岳へ。この頃より雨が降り出す。湿原と地糖のひろがる中門岳への道はゆるやかに続き、傘をさしての木道歩きはそれなりに楽しく、霧の中へ一すじに木道が消えゆく様は幻想的でもある。

それにしても晴れてほしかったというのが、我々の共通の思いでありました。「この辺一帯を中門岳という」この標識のあるところでゆき止り、ここから先は道がありません。時に11時40分、人気のない中門岳は静まり返っておりました。これで本日の予定の半分を消化。あとは下るだけ。その前に腹ごしらえと思えども、雨をさける適当な場所が

ない。かくして傘をさしての食事となる。お湯をわかし、暖かいものをつくり、おにぎりをほおぼる。以前は疲れると食欲がなくなったものであるが、最近ではシッカリと食べる。よく食べ、よく寝て、頭の中をカラッポにして、太って帰るとするのが私の山登りである。ジツとしていると寒気が襲って来るので、早々に退散。雨にぬれた木道はよくすべる。注意せねばと思いつつもズッコケル。大津岐峠までの富士見林道は、ところどころに湿原が点在し、花らしいものがない中にリンドウだけが紫の花をつけている。雨の為かほとんど登山者に出会わない。この道も昔は生活道路であったのでしょうか。時の流れの中で忘れ去られてゆくものは、人間ばかりではない様です。大津岐峠からキリンテへは長くても単調な道が続く。靴の中へは泥水が入り込みミジメな状態。下りにあきたころ、モチモチの木(トチの木)を発見、一面に実が落ちていた。時間がたつのも忘れて、モチモチの実ひろいにせいを出す。この実から粉をとり、それを加工するとモチが出来るとか。でもこれは、子供向けの童話の中に出てくる話であるので、本当かどうかは定かではありません。たび重なる収穫に気を良くして、足よりも軽くキリンテ到着。これで本日の行程の大部分を終る。あとは舗装されたりリッパな道が檜枝岐へと続きます。わら屋根に百合の花が根をおろしているのがあったりして、驚いたりもしましたが、我々を最も興奮させたのは、道の両側に繁る木々でした。「ア、グミがある」「山ブドウ」「山梨ダワ」もちろん総て味わったことは言うまでもありません。食糧不足の時代がやって来たとしても、しぶとく生き残る自信をつけた次第です。6時、無事何事もなく帰館。採取して来たキノコはその晩のみそ汁へ。シビレが来なかったところを見ると毒ではなかった様です。トチの実に関しては我々の手に負えないということで、簡単にチョン。

こうして一つの山登りが終りをつけました。残念ながら駒ヶ岳の全容を見ることはできませんでしたが、湿原と静けさが心に残った山旅でした。山にいる時はしきりと日々の生活がなつかしく思われ、変化のない日常生活の中ではむしろ山に登りたくなります。人間の感情とは不思議なものです。近いうちに又どこかの山へかけてゆくことになるでしょう。今度はどちらの方面になることやら。



【新着資料案内】

この資料は、昭和55年9月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。
行政資料室 付属庁舎4階 TEL 0292-21-8111(内線426)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央官公庁関係		税務職員(初任者)研修テキスト	税務課
昭和55年版 交通安全白書	総理府	昭和55年度 市町村に関連する各部主要施策の概要	地方課
国際児童年の記録	〃	県政モニターの記録 第67号	広報課
日本標準職業分類	行政管理庁	国土利用計画(市町村計画)関係資料	土地対策課
主要国における産業連関作成状況	〃	統計教育推進校研究集録 第9集	統計課
昭和55年版 環境白書	環境庁	昭和50～52年度 市町村村民所得の推計に必要な県民所得関係指標	〃
昭和55年版 国土統計要覧	国土庁	昭和54年 茨城県鉱工業生産指数	〃
昭和53年度 国債統計年報	大蔵省	栄典事務の手引	県民福祉課
昭和54年度 財政統計	〃	昭和55年4月1日現在 保育所一覽表	児童家庭課
昭和53年度 関東信越国税局統計書	関東信越国税局	老人医療費支給制度受給者証交付(更新)事務処理要領	医療福祉課
昭和53年度 人口動態社会経済面調査報告 離婚	厚生省	昭和53年度 交通事故相談の概要	交通安全対策課
昭和53年 林業生産統計年報	農林水産省	昭和54年度 物価安定対策事業の概要	消費生活課
昭和53年 木材需給報告書	〃	灯油の流通・消費実態調査結果報告書	〃
昭和53年 林家経済調査報告	〃	常磐路の歴史散歩	観光課
昭和53年 生産農業所得統計	〃	昭和55年度 茨城県年次雇用計画	職業安定課
第55次 農林水産省統計表	〃	昭和54年度 茨城県農業共済組合等要覧	農業経済課
昭和53年 漁業養殖業生産統計年報	〃	1980 茨城県植生図	林業試験場
昭和53年 関東水産統計地域における漁業動向	〃	昭和54年 漁船統計表	水産施設課
第6次 漁業センサス漁業地区調査の概要	関東農政局	昭和55年度 茨城県土木概要	監理課
美野里町の農業	〃	昭和55年度 茨城県水防計画	河川課
昭和53年産 関東の作物	〃	昭和54年 鹿島港統計年報	鹿島港湾事務所
関東地域経済の産業連関分析	東京通商産業局	豊かな県北の村づくりをめざして — 農林業振興事業実施状況一覽 —	県北地方総合事務所
昭和55年版 中小企業白書	中小企業庁	昭和54年度 茨城県職員採用試験結果概要	人事委員会
1980 労働統計要覧	労働省	県内市町村関係	
昭和53年度 建築統計年報	建設省	昭和55年版 石岡の産業	石岡市
昭和54年 都市計画年報	〃	昭和54年度 統計 いわい	岩井市
昭和53年度 海岸統計	〃	い わ い	〃
昭和51年度 建設業務統計年報	〃	茨城県環境放射線監視計画	東海地区環境放射線監視委員会
昭和52年度 建設工事施工統計調査報告	〃	那珂町史の研究 第2号	那珂町史編さん委員会
昭和55年版 地方財政白書	自治省	住居表示新旧(旧新)対照表	鹿島町
昭和53年度 市町村別財政状況調	〃	境町合併25周年記念要覧 '80	境町
昭和54年版 公共施設状況調	〃	都道府県関係	
茨城県関係		昭和53年度 企業経営の動向	山形県統計課
茨城の保全地域 第1集	環境管理課	昭和55年 統計から見た栃木県のすがた	栃木県統計課
茨城県産業廃棄物処理計画 〔昭和55～60年度〕	〃	昭和54年 栃木県の商業	〃
茨城県におけるコンピュータ利用の見直しに関する報告書	〃		

